

「消化器」コースユニット2・3 試験問題

2019年9月13日

1. 胃酸分泌を亢進させるのはどれか
(a) レプチン
(b) ヒスタミン
(c) セクレチン
(d) インクレチン
(e) ソマトスタチン
2. 肝細胞癌の腫瘍マーカーとして適当なものはどれか
(a) alpha-fetoprotein
(b) prostate-specific antigen
(c) carcinoembryonic antigen
(d) carbohydrate antigen 19-9
(e) human chorionic gonadotropin
3. ビタミン B12 吸収障害をきたす状態について正しいものを選び
(a) 胃切除後
(b) 胆嚢摘出後
(c) 肝左葉切除後
(d) 膵尾部切除
(e) 左半結腸切除後
4. シェーグレン症候群の診断に用いる検査をすべて選べ
(a) サクソンテスト
(b) 口唇腺生検
(c) パッチテスト
(d) 抗 SS-A, 抗 SS-B 抗体検査
(e) Bence Jones タンパク検査
5. 咬合の不正を生じる骨折をすべて選べ
(a) 下顎骨体部骨折
(b) 下顎骨関節突起骨折
(c) 下顎骨筋突起骨折
(d) 頬骨弓骨折
(e) Le Fort I 型骨折
6. 顎骨の急性骨髄炎でみられないものはどれか。2つ選べ
(a) 白血球数の増加
(b) 核の右方移動
(c) グロブリン量の減少
(d) 桿状核球数の増加
(e) CRP 値の上昇
7. 歯性上顎洞炎について誤っているものはどれか。2つ選べ
(a) 歯や歯周炎が原因で生じる
(b) 上顎洞の X 線透過性が亢進する
(c) 片側の^{*}上顎洞に発症することが多い
(d) 歯科用インプラントが原因で起こることがある
(e) 上顎前歯が原因歯となることが多い

8. 舌扁平上皮癌で転移が多いものはどれか。2つ選べ
- (a) 頰部リンパ節
 - (b) 後頭リンパ節
 - (c) 顎下リンパ節
 - (d) 耳介後リンパ節
 - (e) 上内深頸リンパ節
9. 前がん病変はどれか。2つ選べ
- (a) 色素性乾皮症
 - (b) 梅毒性舌炎
 - (c) 白板症
 - (d) 紅板症
 - (e) 口腔扁平苔癬
10. 関係のある組み合わせはどれか。3つ選べ
- (a) 乳頭腫 — パピローマウイルス
 - (b) 口腔扁平苔癬 — 帯状疱疹ウイルス
 - (c) Koplik 斑 — ヘルペスウイルス
 - (d) Fordyce 顆粒 — 異所性皮脂腺
 - (e) 黒毛舌 — 長期抗菌薬使用
11. 唾石症について正しいのはどれか。2つ選べ
- (a) エックス線不透過性のものが多い
 - (b) 両側性に発症することが多い
 - (c) シェーグレン症候群に合併しやすい
 - (d) 舌下腺に好発す
 - (e) 摂食時に疼痛が増強する
12. 嚥下機能について、正しい組み合わせはどれか
- (a) 口腔期 — 不随意運動
 - (b) 咽頭期 — 随意運動
 - (c) 食道期 — 喉頭挙上
 - (d) 嚥下機能改善術 — 輪状咽頭筋切断
 - (e) 誤嚥防止術 — 音声機能改善
13. ヒト乳頭腫ウイルス (HPV) によっておこる頭頸部癌の特徴について正しいのはどれか。2つ選べ
- (a) 予後不良である
 - (b) HPV16 と関連する
 - (c) p53 腫瘍抑制遺伝子の変異は少ない
 - (d) 喫煙者、飲酒者が多い
 - (e) 上咽頭癌との関連が強い
14. 注腸造影検査で一般的に認められる大腸の解剖学的特徴について正しいのはどれか
- (a) 上行結腸は下行結腸より径が細い
 - (b) 下行結腸は上行結腸に比して結腸膨起が目立つ
 - (c) S 状結腸は固定された腸管で可動性に乏しい
 - (d) 上部直腸と下部直腸の境界は経験的に中直腸襞に一致されている
 - (e) 盲腸と上行結腸の境界は回盲弁の下唇レベルである

15. 大腸 CT について正しいのはどれか。2 つ選べ
- (a) 前処置を必要としない
 - (b) 16 列以上の多列検出型 CT 装置が検査に適している
 - (c) 平坦病変の検出に有用である
 - (d) 仮想三次元画像は参照画像とするのみで診断には用いない
 - (e) 標識剤としてバリウム製剤を用いる
16. 次の文章のうち正しいのはどれか。2 つ選べ
- (a) 腸重積は 6 ヶ月～3 歳に多い
 - (b) 成人の腸重積はほとんどが特発性である
 - (c) 小児の腸重積が生じやすい部位は横行結腸である
 - (d) Hirschsprung 病は壁内神経節細胞の欠如が原因で、腹部膨満や腸閉塞をきたす
 - (e) 中腸回転異常では 270° 回転型が最も頻度が高い
17. 次の文章のうち誤っているのはどれか。2 つ選べ
- (a) 外鼠径ヘルニアは小児に多い
 - (b) 急性虫垂炎は初期より右下腹部痛を生じることが多い
 - (c) 大腿ヘルニアは嵌頓を起こしにくい
 - (d) Meckel 憩室は腸間膜の対側に発生する
 - (e) Closed loop が形成されている腸閉塞は手術などの適切な処置を行わないと致死的である
18. 次のうち内ヘルニアはどれか
- (a) 閉鎖孔ヘルニア
 - (b) Winslow 孔(網嚢孔)ヘルニア
 - (c) 内鼠径ヘルニア
 - (d) 大腿ヘルニア
 - (e) 腹壁瘢痕ヘルニア
19. 食道癌の放射線治療について正しいのはどれか。2 つ選べ
- (a) 日本では 60Gy/30 回の放射線治療が行われることが多い
 - (b) アルファベットの N の字に似た「N 字照射」がよく行われる
 - (c) 日本では腺癌より扁平上皮癌の割合が多い
 - (d) 術後に放射線治療が行われることはない
 - (e) 飲酒・喫煙は食道癌発生のリスクにならない
20. 直腸癌・肛門管癌の放射線治療について正しいのはどれか。2 つ選べ
- (a) 切除可能直腸癌は基本的に全例が術前放射線治療の適応となる
 - (b) 直腸癌術後の骨盤内再発による疼痛緩和に効果が期待できる
 - (c) 肛門管癌は根治的放射線治療の適応となり得る
 - (d) 肛門管癌は腺癌が多い
 - (e) 日本では直腸癌より肛門管癌の方が頻度が高い
21. 食道表在癌の治療法の選択で正しいものはどれか。2 つ選べ
- (a) m1 癌は EMR(内視鏡的粘膜切除術)の適応である
 - (b) m2 癌には脈管侵襲が認められるため、根治手術の適応となる
 - (c) sm 癌は早期癌のためリンパ節郭清は不要である
 - (d) sm2・sm3 癌ではリンパ節転移の頻度が高いため、根治手術の適応となる

22. 食道癌に最も合併が多いのはどれか

- (a) 肺癌
- (b) 肝臓癌
- (c) 胃癌
- (d) 大腸癌
- (e) 膀胱癌

23. 疾患と術後早期に起こりうる合併症の組み合わせとして適切なものはどれか。2つ選べ

- | | |
|-------------|---------|
| (a) 食道癌 | — 骨盤内膿瘍 |
| (b) 食道アカラシア | — 嗄声 |
| (c) 胃癌 | — 膝液ろう |
| (d) 上行結腸癌 | — 排尿障害 |
| (e) 直腸癌 | — 射精障害 |

24. 胃癌の術後合併症について正しいものはどれか

- (a) 術後に吻合不全を生じた場合、その後に吻合部狭窄となることがある
- (b) 噴門側胃切除術後の小腸間置再建術は摂取した食物の貯留能保持が主な目的である
- (c) 逆流性食道炎に対しては、逆流防止のための再手術が第一選択である
- (d) 早期ダンピングの症状は血糖値の急速な変動に起因するものが多い
- (e) 胃切除後には鉄欠乏性貧血は稀である

25. 胃癌に対する幽門側胃切除術で通常切離される血管はどれか。3つ選べ

- (a) 右胃動脈
- (b) 右胃大網動脈
- (c) 総肝動脈
- (d) 胃十二指腸動脈
- (e) 左胃大網動脈

26. 大腸癌について誤ってるものはどれか。2つ選べ

- (a) 早期下部直腸癌では、経肛門的、経括約筋的、経仙骨的腫瘍摘除術も適応となる
- (b) 直腸癌術後の局所再発は稀である
- (c) 進行直腸癌に対して放射線治療が行われることはない
- (d) 肝転移、肺転移の頻度は結腸癌と直腸癌との間に差が認められる
- (e) 結腸癌、直腸癌ともに CEA は有用な腫瘍マーカーである

27. 結腸癌について正しいものはどれか。3つ選べ

- (a) 潰瘍浸潤型が多い
- (b) 左側結腸癌はイレウスをきたしやすい
- (c) S 状結腸癌の頻度がもっとも多い
- (d) 血行性転移臓器は肝臓がもっとも多い
- (e) 結腸癌の再発形式は、肝転移より腹膜播種の方が多

28. 45 歳、男性。直腸後壁、歯状線口側 3cm に下縁を有する病変 (20×20mm) を認め、経肛門的に局所切除を施行した。今後の治療として適切なものはどれか。3つ選べ

- (a) m 癌で断端陰性だったので、経過観察を行う
- (b) sm 癌 (高度浸潤 sm3) だったので、閉鎖リンパ節郭清を伴う直腸切除術を行う
- (c) sm 癌 (中等度以上の浸潤 sm2~3) で断端陽性であったので、局所的に再切除を行う
- (d) sm 癌 (中等度浸潤 sm2) であったので、自立神経温存直腸切除術を行う
- (e) sm 癌 (軽微な浸潤 sm1) であったので、経過観察を行う

29. 腸管感染症について、正しいものはどれか。2つ選べ
- (a) 免疫抑制状態では、サイトメガロ腸炎が発症する可能性がある
 - (b) 偽膜性腸炎の薬物治療の第一選択はバンコマイシン経口投与である
 - (c) アメーバ赤痢の確定診断には便培養検査が必須である
 - (d) 回盲部の腸結核は稀である
 - (e) 腸管スピロヘータ症は重症化した後に発見される場合が多い
30. A型胃炎について、正しいものはどれか。2つ選べ
- (a) *H. pylori* 感染がある場合は発症しない
 - (b) 抗主細胞抗体が陽性となる
 - (c) 内視鏡的高度萎縮は前庭部(antrum)中心にみられる
 - (d) VB12(ビタミンB12)欠乏性貧血を合併することがある
 - (e) カルチノイドが多発することがある
31. 大腸疾患の分類法、病因、及び組織像について正しいものはどれか。2つ選べ
- (a) Duke's分類は大腸癌の肉眼形態の分類である
 - (b) 家族性大腸腺腫症は*K-ras*遺伝子のgermline mutationが原因とされる
 - (c) クロウン病は乾酪壊死を伴う類上皮肉芽腫が特徴的である
 - (d) 潰瘍性大腸炎の活動期には陰窩膿瘍が見られることが多い
 - (e) Goligher分類は痔核の病期分類である
32. 胃、及び十二指腸疾患の病因、組織像について正しいものはどれか。2つ選べ
- (a) MALTリンパ腫は*H. pylori*感染と関係がある
 - (b) Gastrointestinal stromal tumor(GIST)の約90%は免疫染色でc-KIT陽性である
 - (c) セリアック病は*Tropheryma whipplei*の感染が原因とされる
 - (d) 胃生検材でadenomaはGroup 4に分類される
 - (e) Borrmann分類は癌の壁深達度、リンパ節転移で判定する
33. 胃癌に関連して誤っているものはどれか
- (a) 早期胃癌とは、癌腫が粘膜下層までにとどまるものであり、リンパ節転移の有無を問わない
 - (b) 大きさ50mmのⅡc 肉眼的粘膜内癌 分化型癌 UL0と判断される病変はESDの絶対適応病変である
 - (c) 大きさ15mmのⅡc 肉眼的粘膜内癌 未分化型癌 UL0と判断される病変はESDの適応拡大病変である
 - (d) 内視鏡的に腫瘍が一括切除され、切除標本が2cm以下の未分化型癌でpT1b(SM1)であり、かつHMO, VMO, Ly0, VOであった場合は、内視鏡的根治度C-2 (eCuraC-2)とし、追加外科手術が標準となる
 - (e) StageⅣ手術不能進行再発胃癌に対する一次化学療法として推奨される薬剤はニボルマブである
34. 胃疾患に関する次の記述のうち誤っているものはどれか
- (a) *H. pylori*感染は胃癌発がんのリスクである
 - (b) 胃MALT (Mucosa-associated lymphoid tissue) の治療として*H. pylori*の除菌治療が有効である
 - (c) *H. pylori*感染は主に幼児期に感染する
 - (d) 胃に発生する悪性リンパ腫の中で、頻度が高い組織型はMALT (Mucosa-associated lymphoid tissue) と濾胞性リンパ腫である
 - (e) 手術不能なGIST (Gastrointestinal Stromal Tumor) の治療として、メシル酸イマチニブが有用である

35. 食道疾患に関する次の記述のうち正しいものはどれか。2つ選べ
- (a) 食道異物は第2狭窄部に最も多くみられる
 - (b) 胸部中部食道 (Mt) は漿膜に覆われている
 - (c) 食道アカラシアの分類として Los Angeles 分類がある
 - (d) 早期食道癌は、原発巣の壁深達度が粘膜内にとどまり、リンパ節転移の有無は問わない
 - (e) RC サイン陽性を伴う食道静脈瘤は治療適応である
36. 小腸からそのまま吸収されるのはどれか
- (a) グルコース
 - (b) スクロース
 - (c) マルトース
 - (d) ラクトース
 - (e) アミロース
37. 炎症性腸疾患に関する記載で正しいものはどれか。2つ選べ
- (a) 近年患者数は減少傾向にある
 - (b) 潰瘍性大腸炎は罹病期間が長期になると大腸癌の合併頻度が高くなる
 - (c) 潰瘍性大腸炎の炎症は全層性でありクローン病に比べて瘻孔や膿瘍形成の頻度が高い
 - (d) 炎症性腸疾患では抗 TNF α 抗体製剤が治療に用いられる
 - (e) 炎症性腸疾患では免疫チェックポイント阻害薬が治療に用いられる
38. 大腸癌について正しいものはどれか。2つ選べ
- (a) 病期 IV 期の大腸癌の5年生存率は病期 IV 期の胃癌より良好である
 - (b) 病期 I 期の肺癌の5年生存率は病期 I 期の大腸癌より良好である
 - (c) 大腸癌の発生は adenoma-carcinoma sequence で説明されるため、大腸の腺腫性ポリープは摘除の適応となる
 - (d) 早期大腸癌ではリンパ節転移はない
 - (e) 大腸癌の発生にはヘリコバクターピロリ感染が関連している
39. 次のうちで誤っているものはどれか
- (a) 胃アニサキス症に対しては虫体の内視鏡的摘出が有効である
 - (b) 胃十二指腸潰瘍の原因の1つに、NSAIDs (非ステロイド性抗炎症薬) の服用がある
 - (c) 機能性ディスペプシアでは各種検査にて明らかな器質的異常を認めない
 - (d) 胃びらんとは、組織欠損が粘膜層のみの状態のことをさす
 - (e) 10mm 以上の胃底腺ポリープは癌化を考慮して内視鏡的切除を行う
40. *H. pylori* について正しいものはどれか
- (a) *H. pylori* 除菌治療後に再感染をきたすことはない
 - (b) Strickland-Mackay 分類の A 型胃炎は、*H. pylori* 感染と関連が深い
 - (c) 胃 MALT リンパ腫は *H. pylori* 除菌療法の保険適応である
 - (d) 幼児期に自然感染した *H. pylori* は、ほとんど自然排除される
 - (e) *H. pylori* 陽性の慢性胃炎 (萎縮性胃炎) 患者は胃癌発生の低危険群である